さいたま市立内谷中学校

白いノート

教育目標　・進んで学ぶ　・心豊か　・たくましく

令和６年１１月１日

さわやか相談室　TEL 048-865-7573

〒336-0034　さいたま市南区内谷 6-10-1　TEL 048-861-7571　http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp

試練を乗り越えた先に・・・

校長　髙山　俊介

どこからともなく金木犀（キンモクセイ）の甘い香りが鼻をくすぐる季節となりました。例年であれば、お彼岸くらいから街を歩くとオレンジ色の金木犀の花に出会えていました。また、気温が下がってくると開花する曼珠沙華（彼岸花）の群生が日本一である埼玉県日高市「巾着田」で真っ赤な絨毯のような景観となるのは、まだ先になるという報道がありました。同じく報道により、箱根駅伝の予選会においてランナーの１人がゴール１０ｍ前で脱水症状になり、何度立ち上がろうとしても崩れ落ち、棄権となってしまった映像を見ました。近年の暑さは、季節の移ろいや営みに大きく影響しています。

さて、日本各地で駅伝大会が開催される季節となりました。駅伝は日本発祥の競技で全国的には大学駅伝が有名です。また、世界最初の駅伝は約 100 年前、京都から上野までを走る壮大なレースでした。さいたま市の中学生の駅伝競走大会は、さいたま市が合併した年に記念イベントとして、本市における全ての年代のイベントの中で１番最初に実施されたと聞いています。そのため、その当時の市長がスタートの号砲を鳴らしました。ですから、第２４回となった現在も、「大会会長」は教育長、「名誉会長」は市長です。こうして、さいたま市誕生とともに体力向上のシンボル的な大会という位置づけで歩みを進めてきましたが、令和に入り、台風やコロナ禍の影響で、中止や襷（たすき）をつながない形式・参加人数限定などの制限を設ける開催がつづき、コロナ禍前のように実施できたのは、昨年からです。さらにこの大会は、県予選を兼ねており、県大会で１位のチームは全国大会へ、上位にはいると関東大会の舞台で襷をつなぐことができます。

本校では、１学期から教員指導の下、計画的に、暑さに負けず、忙しい中でも自分に厳しく、仲間と高め合って練習を重ねた第１学年から３学年の男女合わせて４３人で大会に臨みました。（裏面参照）今年度も男女各６３の駅伝チームで競い合うことができ、練習の成果を発揮しました。自分たちの汗と思いだけでなく、先輩たちの思いもしみ込んでいる襷をつなぎ、代表となった走者はもとより、各走者のサポート役や走路の各地点におけるタイム計測役など、チームでの自分の役割を全うするとともに、長期的な練習に取り組む中でも様々なことを学びました。

その他にも駅伝からは、多くの人が、長い距離を走り続けることをいかにつらく困難であるか経験知としてもっているからこそ、ランナーの懸命な姿を見て勇気が湧いてきます。また、駅伝とは単にレースの形式を指すのではなく、全選手が共通の目的に向かって力を合わせることであり、そこには団結心や人間の精神が類まれな形で表われます。さながら、人生の１ページのようです。このことから、進路選択が佳境に入っている第３学年の生徒の皆さんは、特に参考にしてほしいと思います。個人戦となる進路選択により、気分が上がらない日もあるでしょう。ただ、決定までの試練となる期間は、共に学んできた仲間となら、きっと乗り越えられます。「白いノート」の最終ページである桜の季節に、皆さんの笑顔の花が咲き誇ることを期待しています。